

# IMSAR-J 道迷いシンポジウム 2015

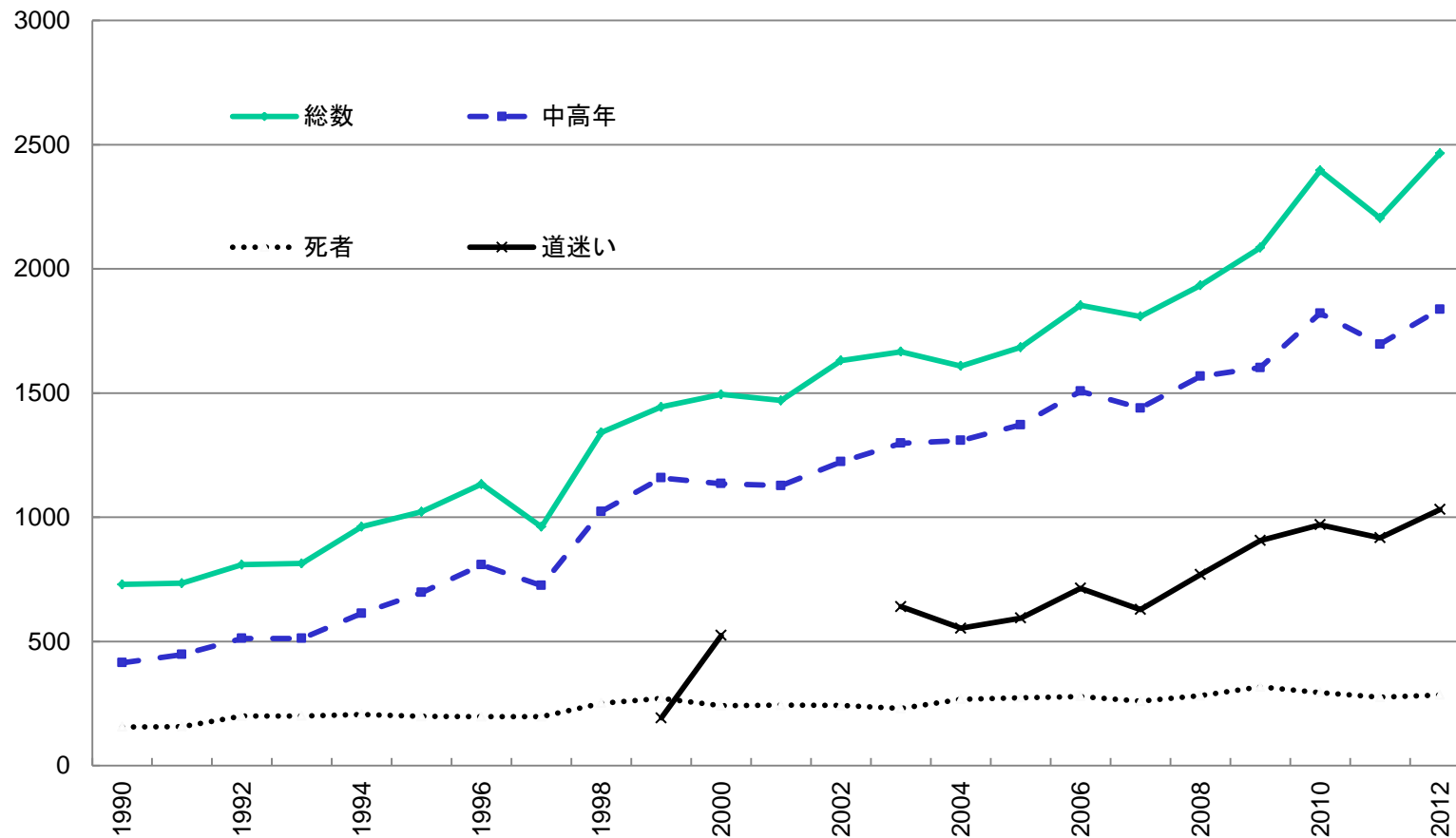


## 変わる道迷い: 遭難統計の分析 から

静岡大学教育学部・NPO法人Mnop・  
(公社)日本オリエンテーリング協会  
村越真

# 1. はじめに

## 遭難者数の推移



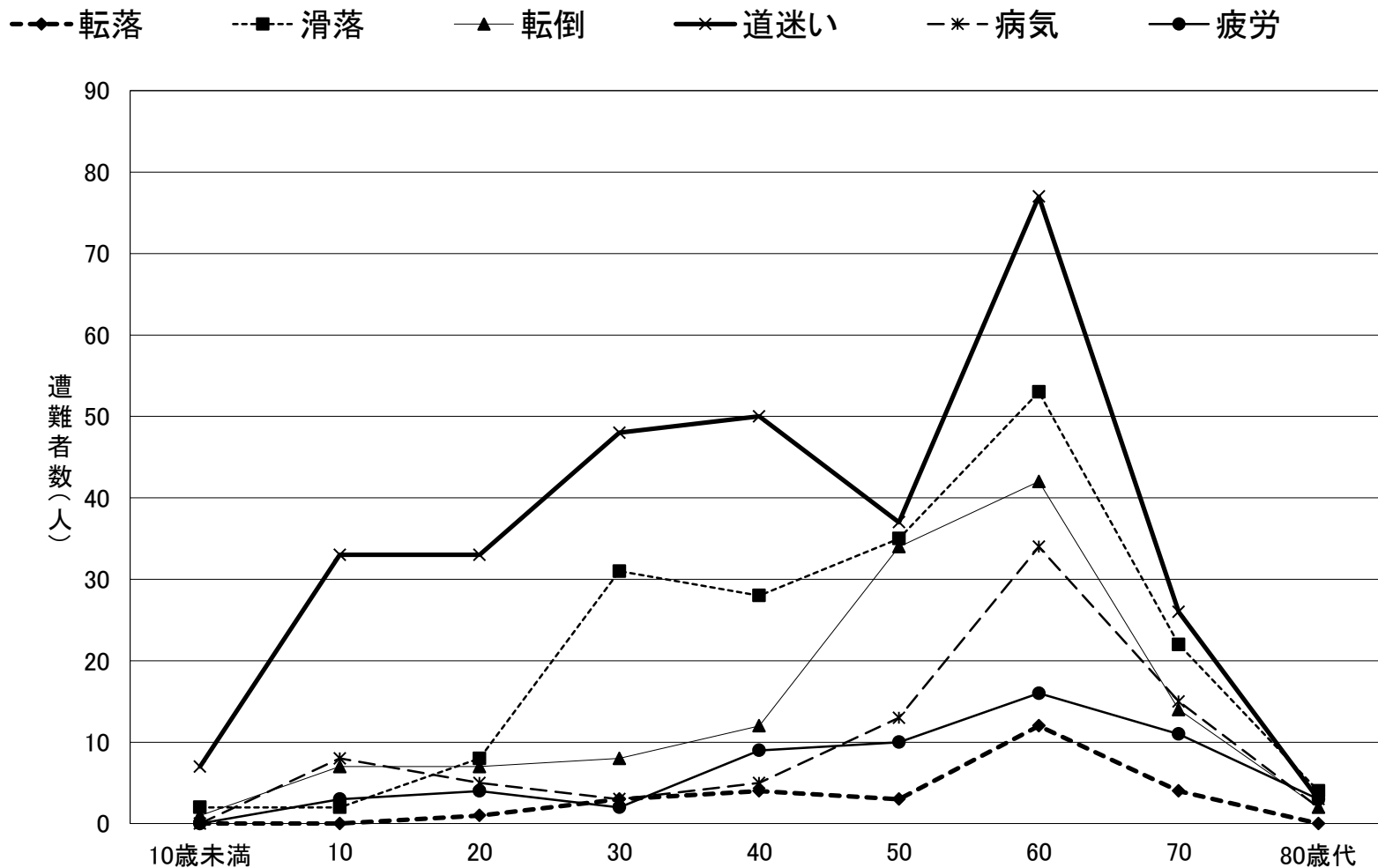
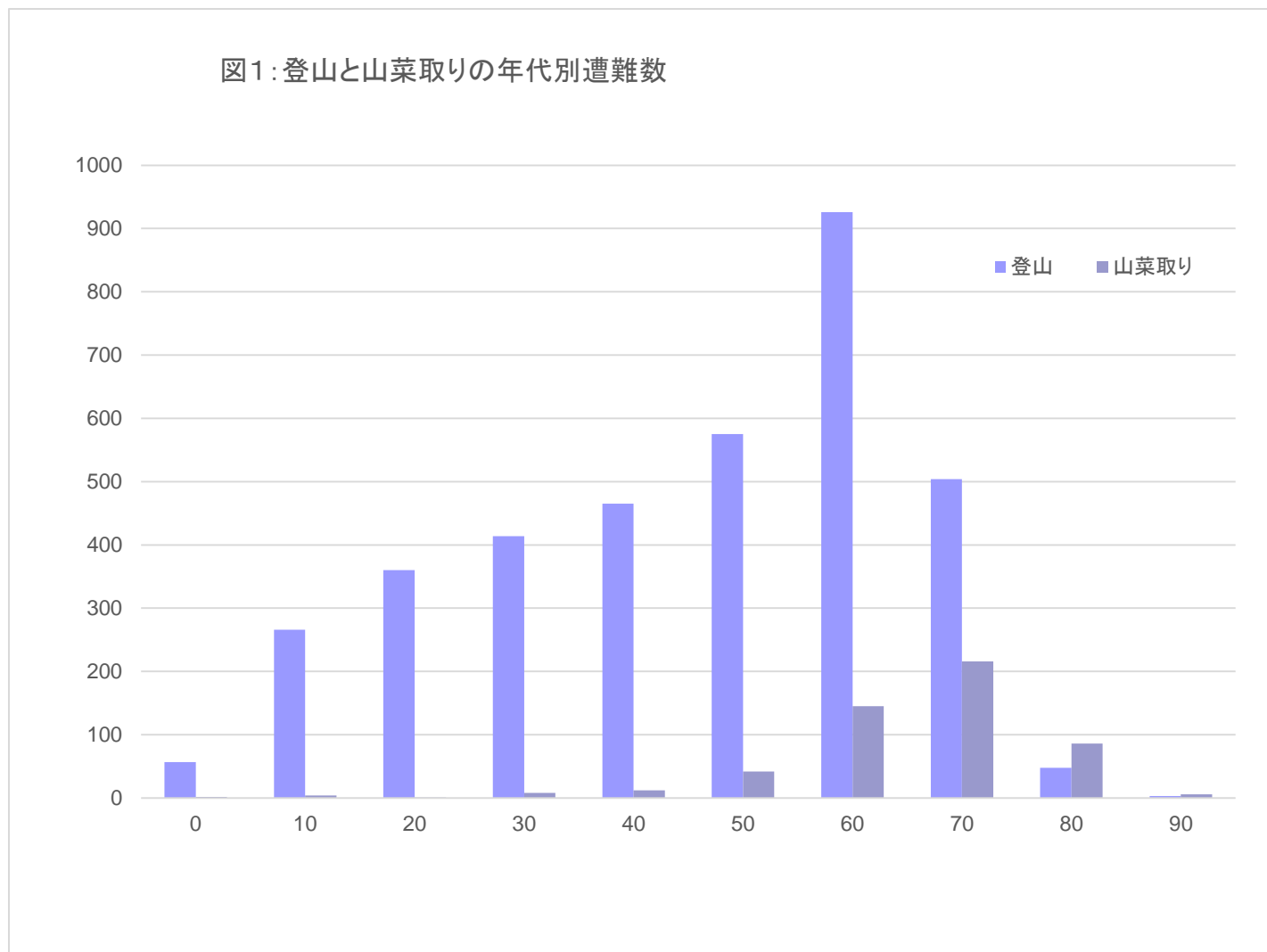


図2b.態様と年代別遭難者数(男性、2010)

## 2. 方法

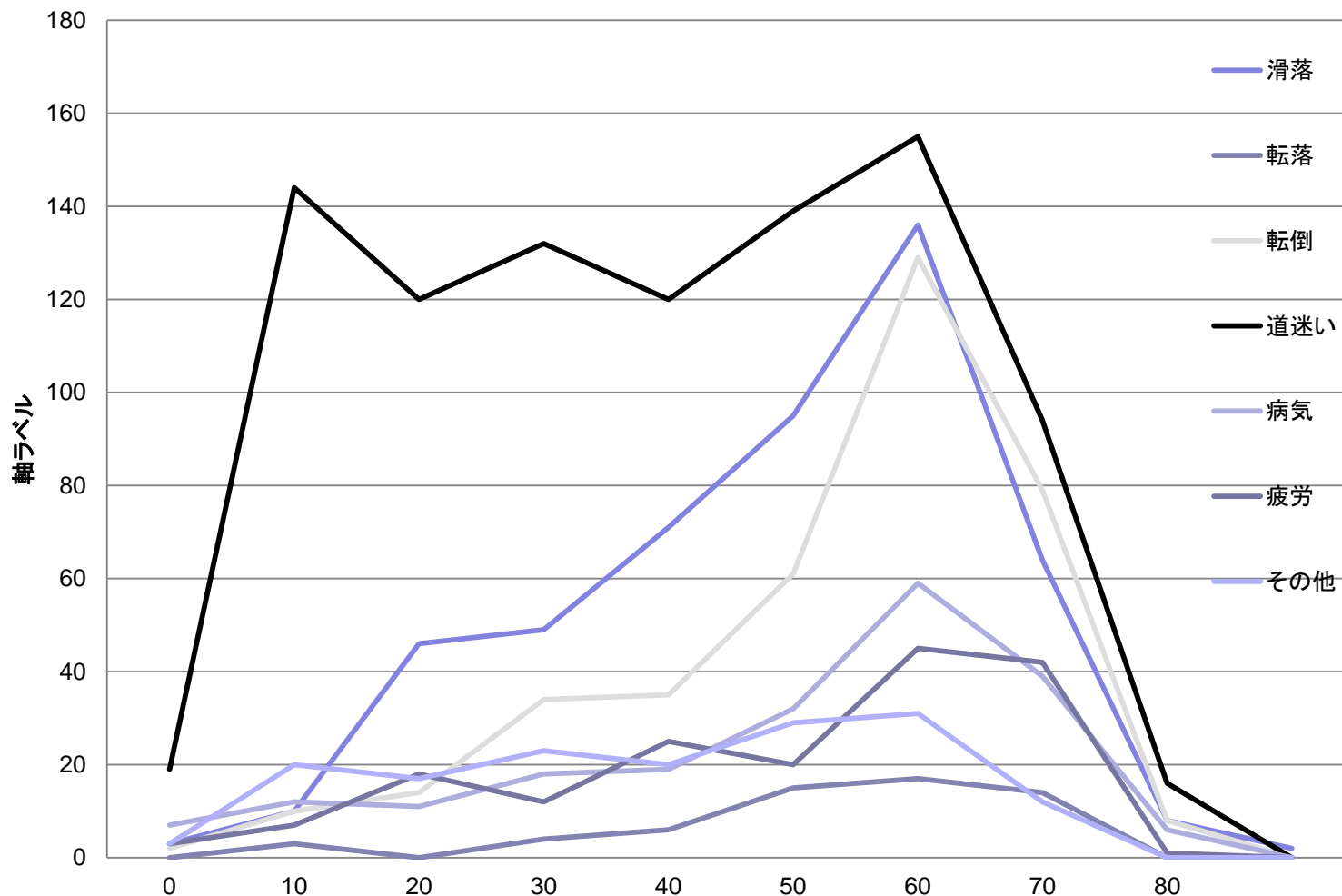
- 2012年、2013年、各警察本部に直接依頼文および電話で依頼した。
- 2012年は43都道府県、2013年は44都道府県より合計4686人分、登山に限っては3672人分のデータを収集（登山のみでは「99.1%」（静岡県警では「観光」に分類している夏の富士登山も登山として集計した））
- ハイキングや沢登り、ロッククライミング、スキー登山やトレイルランニングも含まれている。ただ、ロッククライミングやスキー登山、トレイルランニングの遭難数は限られているので、全体の傾向には大きな影響はないと考えられる。

### 3. 結果（山菜採りとの比較）

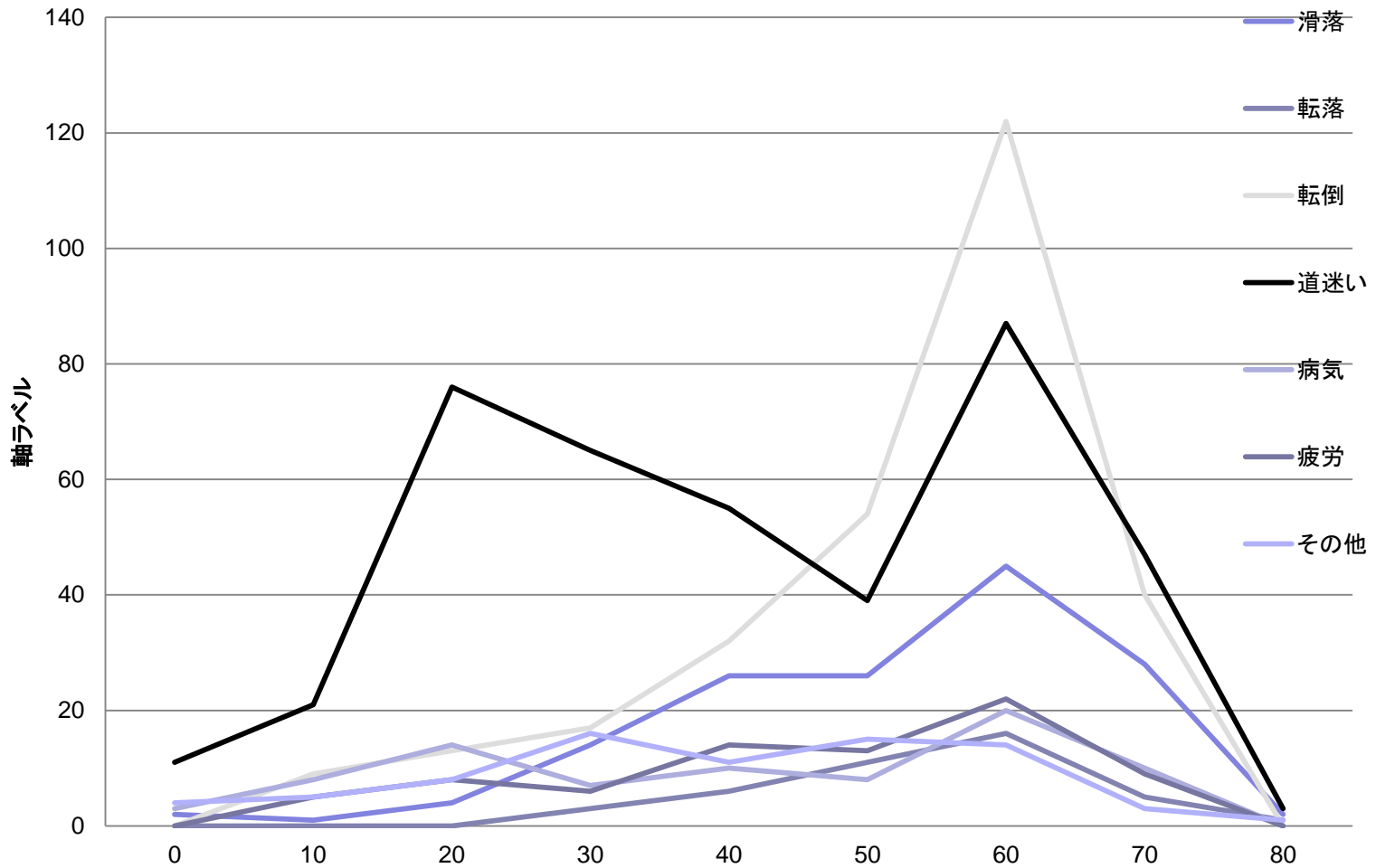


# 3. 結果(性×年代×態様)

## 図2: 態様と年代別遭難者数(男性)



# 図3: 態様と年代別遭難者数(女性)



# 3. 結果(山域)

図4: 山域と態様別遭難遭難者数(男性)

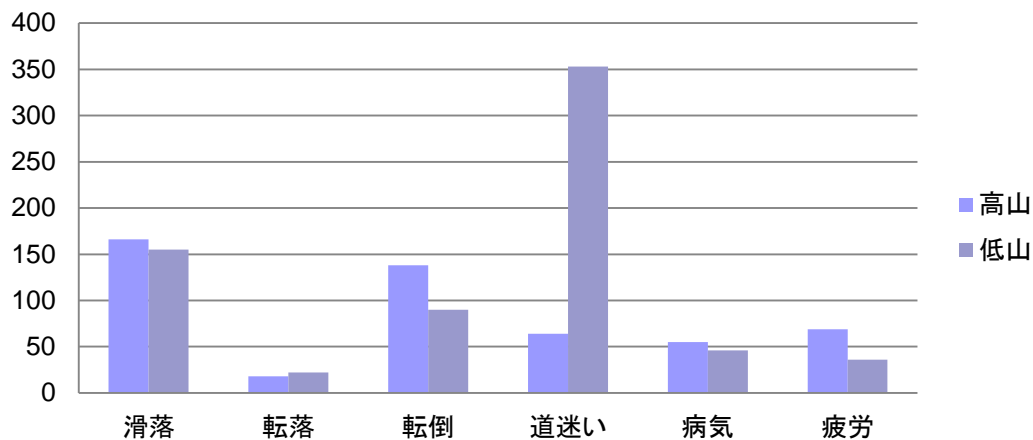


図5: 山域と態様別遭難遭難者数(女性)

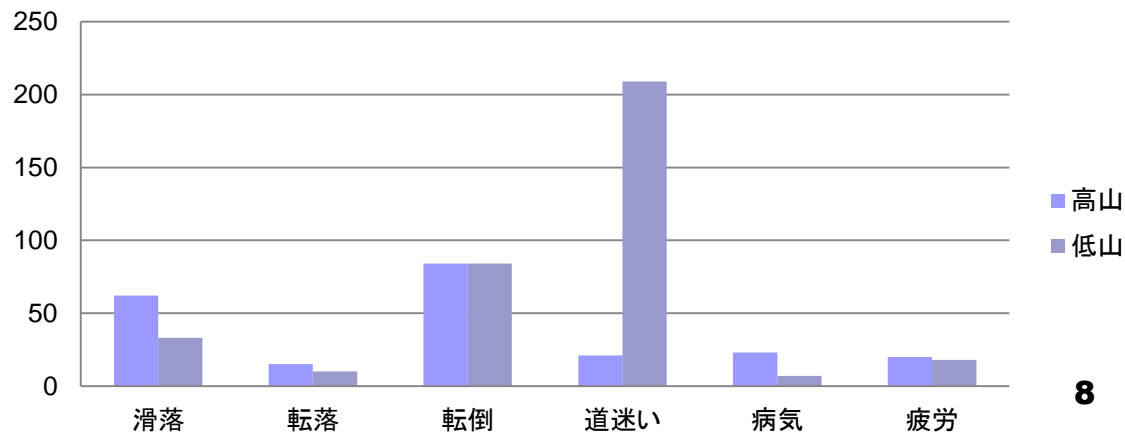




図7: 態様×季節別遭難遭難者数(女性)

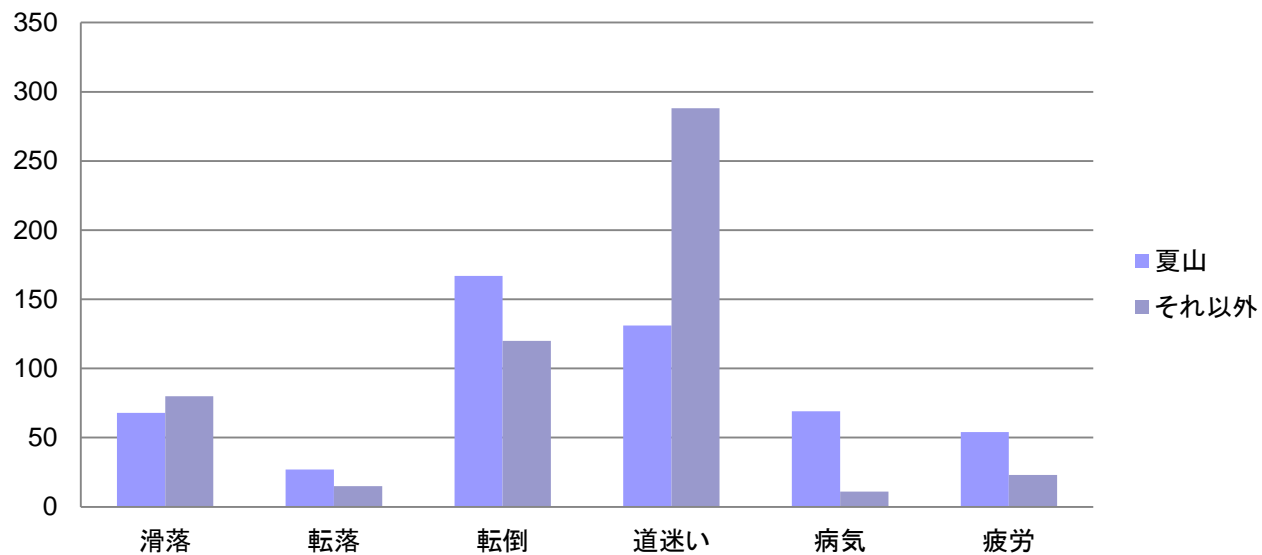
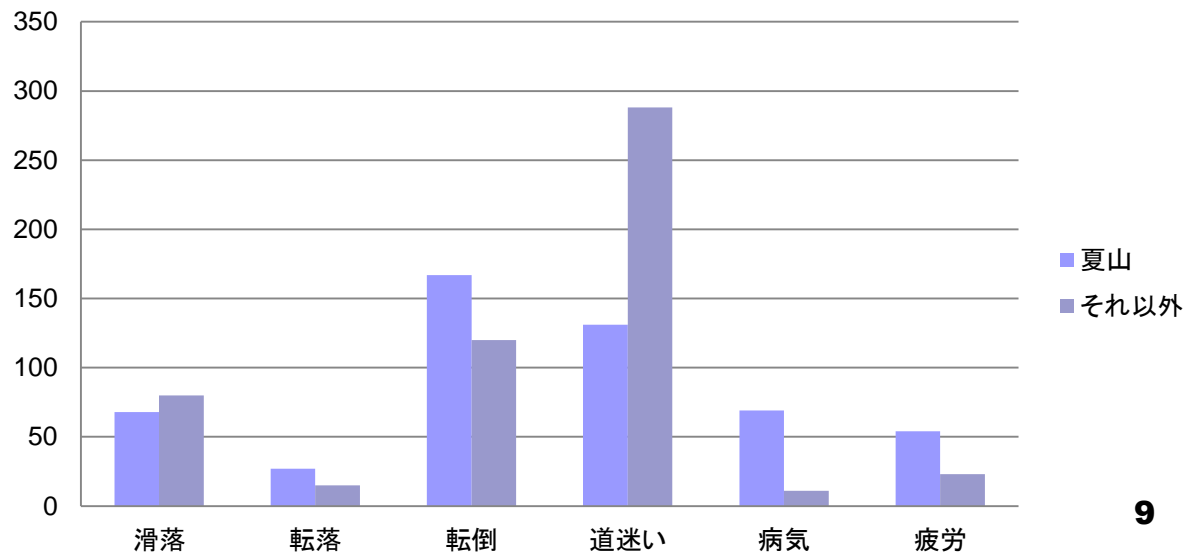


図7: 態様×季節別遭難遭難者数(女性)



# 図8: 時間帯 × 態様別遭難者数(男性)

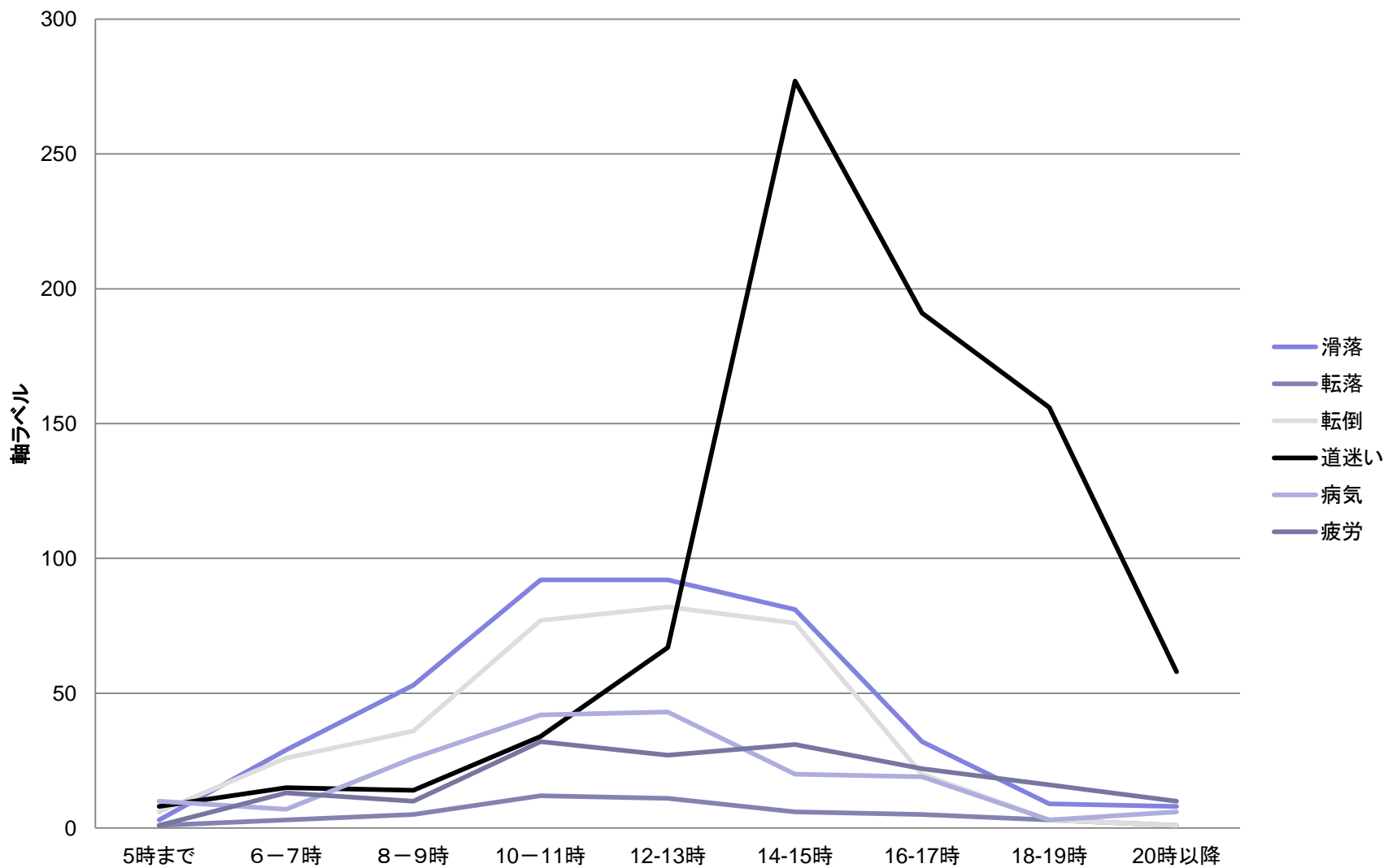
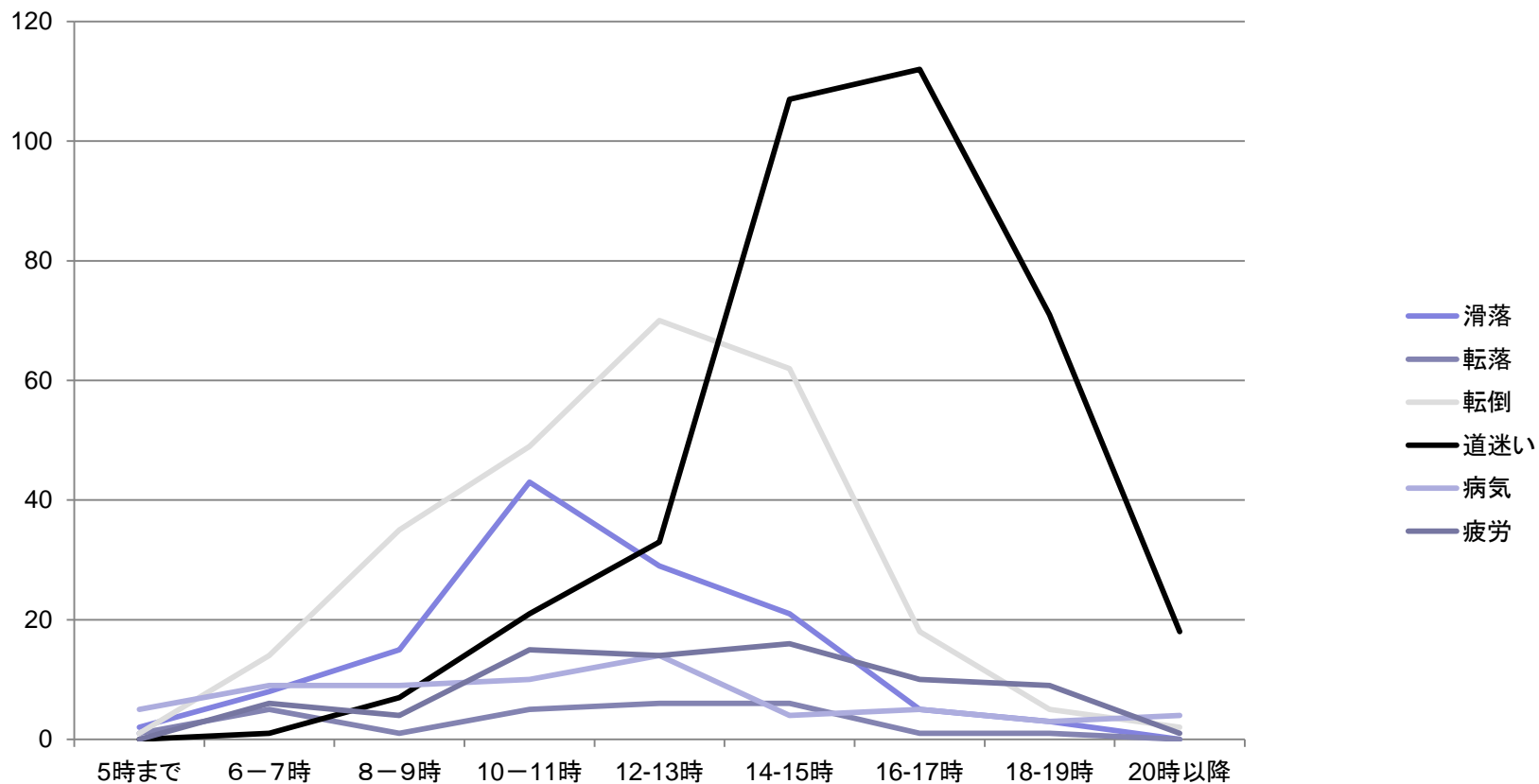
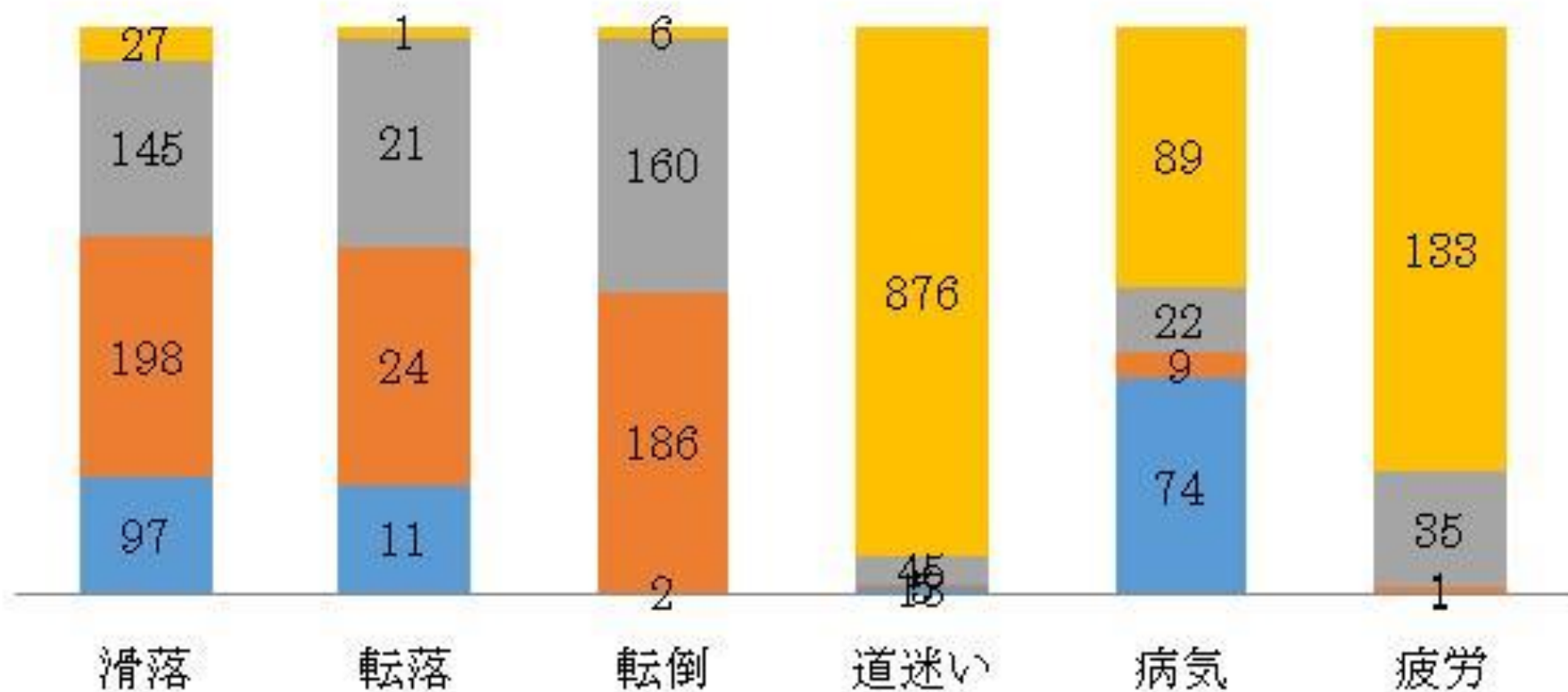


図9: 時間帯×態様別遭難者数(女性)



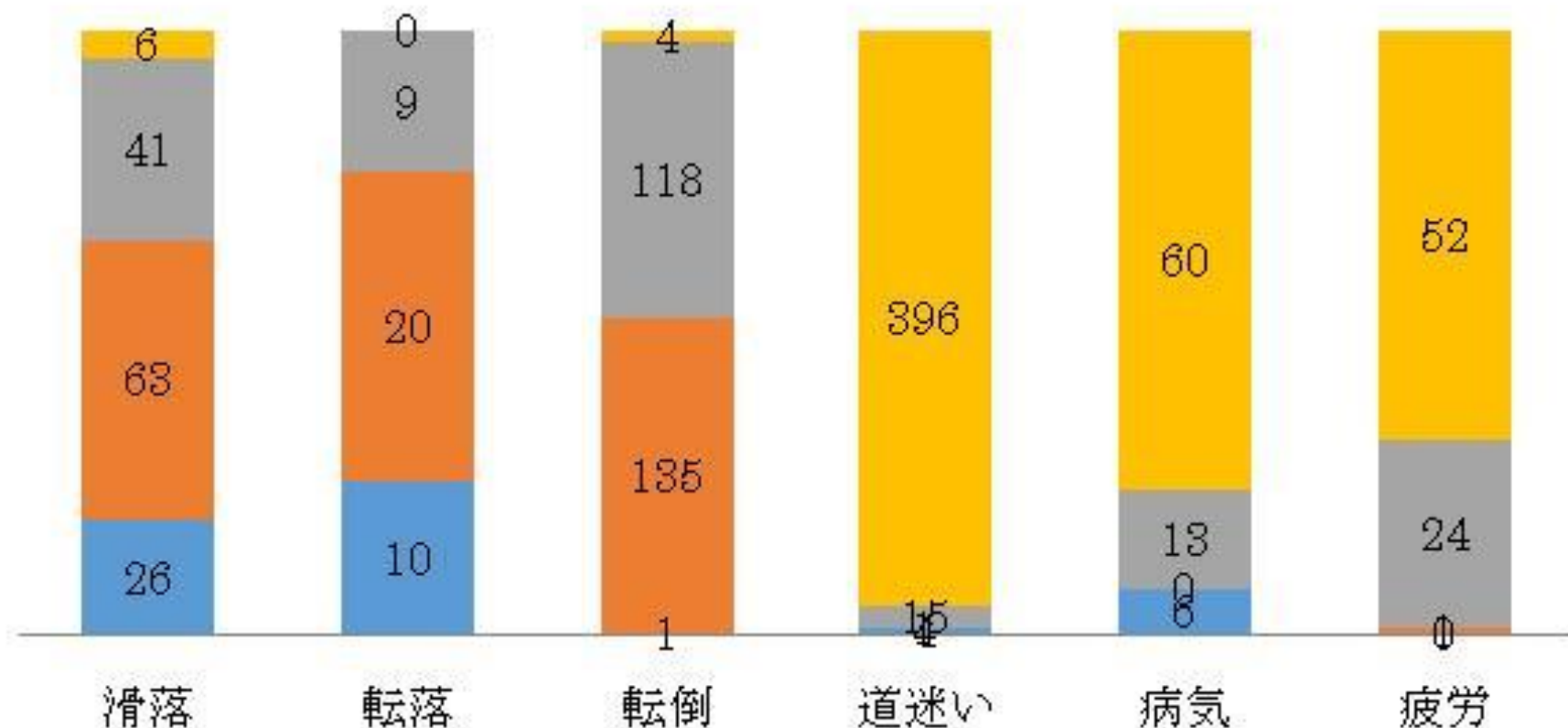
# 図10: 態様と負傷程度別遭難者数 (男性)

■ 死亡・行方不明 ■ 重傷 ■ 軽傷 ■ 無事救出

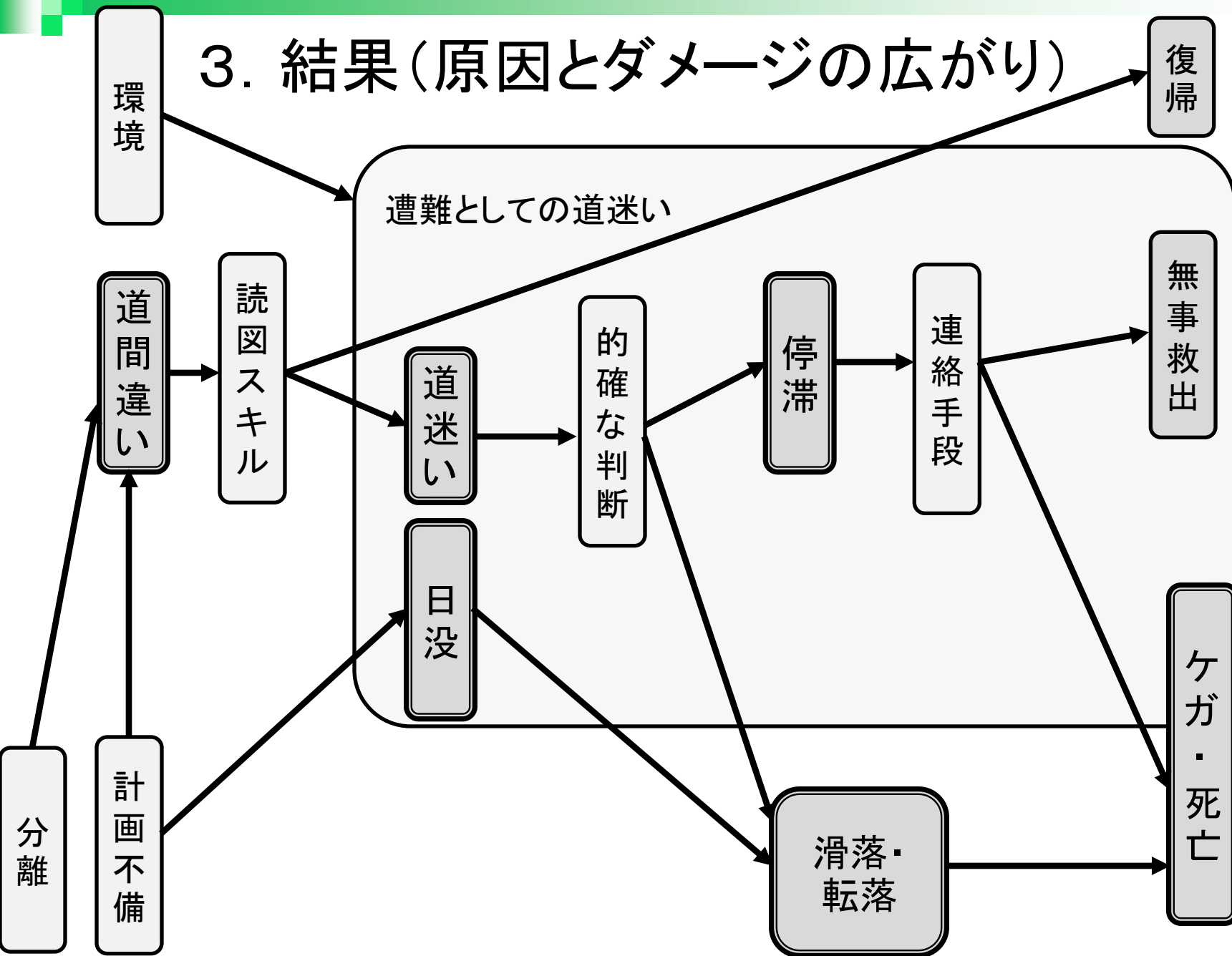


# 図11：態様と負傷程度別遭難者数（女性）

■ 死亡・行方不明 ■ 重傷 ■ 軽傷 ■ 無事救出



### 3. 結果（原因とダメージの広がり）



## 4. 結論

- 若年層にも道迷いは広がっている(構成比は若年層で大きい)
- 夏以外、低山で発生数が多い
- 多様な要因、多様な態様。全体的には損害は低い態様だが、多様なダメージが起こりえる。